

# 自閉症

## (5) 情報機器等の活用

自閉症のある子供の障害特性から生じる困難さに対応するための様々な情報機器があります。自閉症のある子供には、コンピュータなどのハイテクノロジーだけでなく、週や1日の流れ、活動の流れを示すスケジュール表や手順表といった視覚的な手がかりであるローテクノロジーも有効です。

一斉指導や式典などの行事は、子供にとって音声言語の理解が難しいために参加が困難になります。このような場合、パソコンと液晶プロジェクター、スクリーンなどを使用し、写真や文字などを表示しながら進行することで、自閉症のある子供は話や活動の内容を理解しやすくなります。

現在、コンピュータ教材として様々なソフトウェアが市販されています。自閉症のある子供に特化したものではありませんが、指導のねらいを明確にすることで、これらのソフトウェアを活用していくことは可能です。

その他、VOCA（Voice Output Communication Aids）（図Ⅱ-9-3）のようなコミュニケーションを支援する機器や、タイム・タイマー（図Ⅱ-9-4）やタイムエイドなどの時間の経過を視覚的に示す機器があります。これらの機器は、自閉症のある子供が見通しをもったり、自主的に活動したりすることの手助けとなります。